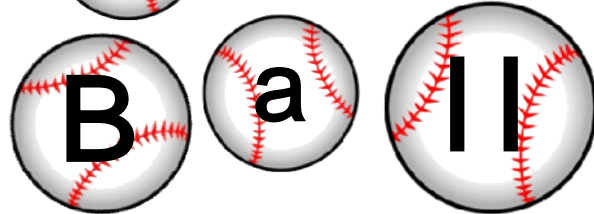




〒014-0054
大仙市大曲金谷町26-9
TEL:0187-63-2257
FAX:0187-62-3434
http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp



キャッチボール
～地域に開かれた農場を目指して～



農場長(佐々木 惇)より

= 収穫の秋 =

今年の夏は、厳しい暑さが長く続きました。気がつけば、実習の生徒の服装も夏のTシャツから長袖シャツに替わり始めました。

各部門より収穫や誕生を伝える明るい話題が「農場だより」に寄せられています。夏を乗り越え、大きく育った野菜、あま～い果樹、稔り豊かなお米と加工品、大農新鮮うめもん市や販売実習で生徒が皆様にお届けします。収穫の秋を、多くの人々と共に美味しく味わいたいと思います。

水田部門



(担当: 藤井亨、高橋寿徳、佐々木尚人、黒田一久)

残暑が短く、低温が続く、予想より遅れましたが、無事に大嶋農場水田でも稲刈りが始まりました。「あきたこまち」を皮切りに順次進めていきます。稲刈りの進み具合と米の品質は天候に大きく左右されますので、好天に恵まれることを祈るばかりです。大農祭に向けて、職員玄関前に「はさがけ」を作成しました。今年は都合により、もち米「きぬのはだ」です。是非ご覧ください。



小家畜部門



(担当: 田口健一、佐藤晴輝)

強制換羽が終了し、また順調に卵を持ち始めました。本校の農産部販売所は来月で終了しますが、その後も農業科学館や販売実習で鶏卵を販売します。その際はよろしくお願ひします。また、10月25日(日)の大農祭一般公開日にも販売をします。是非本校に足を運んでください。

大家畜部門



(担当: 佐々木惇、佐藤晴輝)
子牛が生まれたよ!

9月17日(木)午前10時30分、さくらこが雄牛を出産しました。当日は、大嶋農場で実習の多くの生徒が出産の様子を見学しました。多くの生徒が初めての出産に立ち会いました。今年度になって3頭目の出産です。現在、牛舎には3頭の母牛と3頭の子牛がいます。見学に来てください。



中家畜部門



(担当: 守屋拓、佐藤潤之介)

9月12日(土)に子ブタが生まれました! 現在すくすく育っていますがお母さんは初産ということで少し警戒心が強くなっています。実習で来るときにはそーっと見てください。生まれた時の体重は平均1.2kgです。このブタたちが半年後に出荷される時には115kgになりますので百倍の体重になるということです。すごい勢いで成長していますね。



花卉部門



(担当: 平塚祥広、山代和也)

温室内ではシクラメンが咲き始めています。シクラメンは「篝火花(カガリヒバナ)」という別名があるのをご存知ですか? 戦国時代を模したドラマで戦時に焚かれるかがり火に似ていることから名付けられました。秋の終わりから冬にかけてどんどん開花していくシクラメン。篝火のように真っ赤な花を見せてくれます。花の別名を知って草花を鑑賞するとまた違った楽しみを感じることができるかもしれませんね。

果樹部門



(担当：佐々木孝之、佐藤農)

果樹園内のリンゴも色づき始めました。左は「紅玉」リンゴパイに最適な酸味の強いリンゴです。明治4年にアメリカから導入された品種です。右は「やたか」で、早生の「ふじ」です。着色のために、従来はシルバーシートを敷いていましたが、現在では白色シートを敷くのが主流になりつつあります。大農祭では西洋ナシ「ラフランス」、ブドウ「スチューベン」を販売予定です。



野菜部門



(担当：古戸毅、和泉有紗、富樫久雄)

野菜部門は現在、秋キャベツ、長ネギ、秋ブロッコリー、カボチャ等の収穫期を迎えております。うめもん市や実習の生徒が学校周辺の事業所等に出かけて販売していますが、職員室でも販売しますのでご購入よろしくお祈いします。春キャベツは生食に、秋キャベツは葉に締まりがある分、火を通す鍋物等に最適です。



食品加工部門



(担当：伊藤寿人、三嶋登忍)

10月25日(日)の大農祭に向けて製品作りを頑張っています。大農伝統のぶどう液「キャンベル」を製造中です。クエン酸が夏ばて解消のお手伝いをします。氷を入れてご賞味下さい。リンゴ・イチゴ・ブドウ・ブルーベリーの各ジャムを販売予定しております。冷たいアイスクリーム、ヨーグルトとの相性は絶品です。大農のお米、JAおばこ産大豆で熟成させた「大農味噌」は県外の卒業生の超人気製品です。日本の伝統食品はふるさとの香り・味をお届けします。

9月7日(月)に農業科学科先進地見学が行われました。

食品製造を専攻している生徒は、大仙市のトマトメガ団地、盛岡市の小岩井農場・小岩井乳業を見学しました。大仙市のメガ団地は点滴灌水でトマトを栽培する最先端の農業を行っていました。農業の6次産業化を早くから行っている「小岩井農場」は日本中に名の知られる農場で、起業家を目指す生徒の参考になりました。本校は乳牛がないため、乳製品の販売にむけた加工実習をおこなっていません、小岩井乳業は高品質の牛乳・乳製品を製造販売しており、最新の施設設備は生徒の学習にとっても参考になりました。



大仙市トマトメガ団地で真剣にメモをとっています。



小岩井乳業の最新の加工施設、衛生面が最高です。

生物工学部門



(担当：大沼克彦、大坂淳、照井豊和、小林和成)

温室ではオンシジウムやカトレアが咲いており、大農祭に展示できればと思っています。また生物工学科では、4月から今まで取り組んできた課題研究の成果を展示するために、研究発表ポスターの作成をはじめました。植物・微生物・環境の3分野に分かれて、授業の中で一生懸命に取り組んできた今年の成果発表をご期待ください。

